

# 救急災害医学・救急部

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	1人 (1人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	2人 (1人)
診療助教	3人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	3人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	10人

## 1-2 教員の異動状況

吉野篤人(教授)(平成25年5月1日～現職)  
齊藤岳兎(講師)(平成24年4月1日～助教 平成26年8月1日～講師)  
高橋善明(助教)(平成25年10月1日～現職)  
穂積宏尚(助教)(平成26年8月1日～現職)

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	末梢組織酸素飽和度測定による救急患者評価
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	傷病者の末梢循環を評価することを定量化することは困難であったが、Toccareを使用することで可能となっている。Toccareを用いて、傷病者の予後評価を行い、重篤化する患者の予測や心肺停止患者の心拍再開の予想をする。
	(3) 前年度までの状況	健常人での指、母指球、頸部でのSnO2/HbIデータを採取した。
	(4) 当該年度内の進捗	倫理委員会に傷病者データ採取の申請書を提出する準備をしている。
	(5) 翌年度の方針と予想	心停止患者における末梢循環評価を行い、救命できる可能性がある傷病者の予測をする。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	ドローンを用いた救急災害医療
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	ドローンはさまざまな分野で使用されているが、救急災害分野で適切に利用されているとはいえない。ドローンを用いて物品搬送だけでなく、遠隔操作にて傷病者評価ができることは重要と考える。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	新たな救急蘇生法の開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	体が小さな方の胸骨圧迫は不十分であり、傷病者の社会復帰を妨げている可能性がある。新たな蘇生手技は心停止患者の心拍再開率を上げる可能性がある。

## 3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	6編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	21.565
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	1編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4) 著書数(うち和文のもの)	3編 ( 3編 )
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	2編 ( 0編 )
そのインパクトファクターの合計	1.480

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Hozumi H, Fujisawa T, Nakashima R, Johkoh T, Sumikawa H, Murakami A, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Hosono Y, Imura Y, Mimori T, Suda T: Comprehensive assessment of myositis-specific autoantibodies in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease, Respiratory Medicine, 121, 91-99, 2016.	3.036

論文数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 3.036

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Suwa K, Saitoh T, Takehara Y, Sano M, Nobuhara M, Saotome M, Urushida T, Katoh H, Satoh H, Sugiyama M, Watayama T, Alley M, Sakahara H, Hayashi H. Intra-left ventricular flow dynamics in patients with preserved and impaired left ventricular function: Analysis with 3D cine phase contrast MRI (4D-Flow), J Magn Reson Imaging, 44(6), 1493-1503, 2016	3.250
2.	Karayama M, Inui N, Mori K, Kono M, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Watanabe H, Suda T; Respiratory impedance is correlated with morphological changes in the lungs on three-dimensional CT in patients with COPD, Scientific Reports, 7, 41709, 2017.	5.228
3.	Kono M, Nakamura Y, Yoshimura K, Enomoto Y, Oyama Y, Hozumi H, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Hamada E, Colby TV, Maekawa M, Suda T: Nonspecific interstitial pneumonia preceding diagnosis of collagen vascular disease, Respiratory Medicine, 117, 40-47, 2016.	3.036
4.	Enomoto Y, Suzuki Y, Hozumi H, Mori K, Kono M, Karayama M, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Suzuki D, Ogawa N, Nakashima R, Mimori T, Iwashita T, Suda T: Clinical significance of soluble CD163 in polymyositis-related or dermatomyositis-related interstitial lung disease, Arthritis Research & Therapy, 19, 9, 2017	3.979
5.	Kono M, Nakamura Y, Oyama Y, Mori K, Hozumi H, Karayama M, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Yamada M, Hamada E, Colby TV, Maekawa M, Suda T: Increased levels of serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein in idiopathic pulmonary fibrosis, Respiratory Medicine, 115, 46-52, 2016.	3.036

論文数(B)小計 5 うち和文 0 IF小計 18.529

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

論文数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

総説数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Sano M, Satoh H, Suwa K, Saotome M, Urushida T, Katoh H, Hayashi H, Saitoh T. Intra-cardiac distribution of late gadolinium enhancement in cardiac sarcoidosis and dilated cardiomyopathy. World J Cardiol, 8(9), 2016	0.000

総説数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1.	齊藤岳児 吉野篤人: 避難所診療における慢性疾患治療薬の必要最小化, 南山堂, Vol65, No13, 3414-3418, 2016	
2.	高橋善明: オートプシー・イメージング(Ai)における撮影・読影のポイント 救急医療におけるAiの位置づけと読影(解説/特集), インナービジョン, 32巻1号 Page43-45(2016.12)	

著書数(A)小計 2 うち和文 2

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	吉野篤人: 日本外傷学会外傷初期診療ガイドライン編集委員会: 改訂第5版外傷初期診療ガイドライン, へるす出版, 217-224, 2016年	

著書数(C)小計 1 うち和文 1

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

症例報告数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Sakamoto A, Urushida T, Sakakibara T, Sano M, Saitoh T, Saotome M, Katoh H, Satoh H, Hayashi H. Accidental entrapment of electrical mapping catheter by Chiari's network in right atrium during catheter ablation procedure. Case Rep Cardiol, 2016	0.000
2.	Nishimoto K, Karayama M, Akiyama N, Suzuki S, Inoue Y, Kono M, Hozumi H, Suzuki Y, Furuhashi K, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Suda T: Gastrointestinal Bleeding From Duodenal Aberrant Pancreas After Antiangiogenic Therapy, Journal of Clinical Gastroenterology, 50, 689-690, 2016.	1.480

症例報告数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 1.480

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	2 件	580 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	1 件	200 万円
(7) 受託研究または共同研究	1 件	0 万円
(8) 奨学寄附金	1 件	50 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	超小型赤外線分光計測装置を用いた救急室と災害現場での傷病者評価、2016-04-01-2019-03-31 代表	360万円
2.	間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎における筋炎特異的抗体とバイオマーカーの研究 2016-04-01-2018-03-31	220万円

(6) 財団助成金

1.	グラクソスミスクライン(GSKジャパン)	200万円
----	----------------------	-------

(7) 受託研究または共同研究

1.	エンルートラボ	-
----	---------	---

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
3) 学会座長回数	0 件	6 件
4) 学会開催回数	0 件	1 件
5) 学会役員等回数	0 件	10 件
6) 一般演題発表数	2 件	

(1) 国際学会等開催・参加

6) 一般発表

6-1) 口頭発表

1.	YOSHINO Atsuto, Disaster Medical Training for Local Citizens and Doctors' Association, The 13th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, 2016 November 7, Bangkok,(Thailand)
----	---

6-2) ポスター発表

1.	Hozumi et al. Serum anti-ARS and anti-MDA-5 antibodies are useful biomarkers for predicting the prognosis in patients with polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease. American Thoracic Society 2016 International Conference, May 13-18, 2016, San Francisco (USA).
----	--

(2) 国内学会の開催・参加

3) 座長をした学会名

1.	吉野篤人、日本臨床救急医学会、郡山ビッグパレット、2016年5月13日
2.	吉野篤人、日本救急医学会総会、プリンスホテル新高輪、2016年11月18日
3.	吉野篤人、日本救急医学会中部地方会、名古屋大学、2016年12月3日
4.	吉野篤人、日本集団災害医学会、名古屋国際会議場、2017年1月15日
5.	齊藤岳児、日本循環器病学会総会、金沢、2017年3月
6.	高橋善明、日本集団災害医学会、名古屋国際会議場、2017年2月15日

4) 主催した学会名

1.	吉野篤人、学会長、日本熱傷学会東海地方会(浜松市医師会館)、2017年2月25日、70名
----	--

5) 役職についている国内学会名とその役割

1.	吉野篤人: 日本救急医学会評議員、JATEC企画運営委員会、診療の質評価指標に関する委員会、原子力災害対応特別委員会 日本集団災害医学会評議員、倫理委員会 日本臨床救急医学会評議員 日本救急医学会中部地方会理事 日本熱傷学会東海地方会評議員
2.	齊藤岳児: 日本循環器学会東海評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件

(3)学内共同研究	0 件
-----------	-----

## 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1 件

1. エンルート株式会社

## 11 受 賞

### 12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

1. 提言減災:後方支援の大切さ、静岡新聞、2016年7月24日
2. 提言減災:後方支援の大切さ、静岡新聞、2016年7月24日
3. 災害時学生の力生かせ、静岡新聞、2016年5月12日
4. 浜松医科大と病院過去最大の災害訓練、静岡新聞、2016年8月7日
5. 列車火災時の安全確保、静岡新聞、2017年1月18日
6. 災害時の対策提案、静岡新聞、2017年1月25日

## 13 その他の業績